

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第 5 号

令和 元年 10月30日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 岩 羽 純 一

【提案日時】

10月 2日 (水)

提案 内藤 和貴 先生 (谷本小)

【会 場】

横浜市立丸山台小学校

司会 吉川 礁子 先生 (飯島小)

記録 中村 洋子先生 (中川小)

単元名『わたしたちのごみのゆくえ』

○単元の流れ

- ・ごみがどこに運ばれているのか



- ・収集車のごみを実際に集めている様子



- ・身近なTストアがごみを減らす工夫 (横浜市に協力している。)

視点1

- ・ごみがどこに運ばれているのかを追究していく。
- ・収集車のごみを実際に集めている動画
- ・動画の続きとして収集車がどこかに走り去っていく様子を見せる。

視点2

- ・Tストアの商品を扱い、共通の体験をするとともに身近なところから選択・判断の
ところにつなげていけると考える。
- ・文節のつながりはどうか。

○協議内容

- ・単元の導入について

映像にインパクトがあった。写真が多い。→ごみ調べにつながる。

実際に見ながらしたのがよかった。→量に着目

- ・本時の資料について (トレイについて)

トレイを扱うこととしてはよかった。

前段が長かった。

見た目にいっている。HPから目を付ける。→販売側から。

トレイは、お店の工夫になるか。

広がったものが小さくなった。

・分別は、子どもの中にある。種類より量に着目する。

・新しい価値としてリサイクルすれば大丈夫。→3Rの優先順位。

リデュースなら、初めから根拠をもつ。

・児童から、「ごみをリサイクルしたら看板になるけど、それはいらぬから」という発言があった。

教師も発言について考えさせているが、「昔の学習をふり返った発言」であったことをほめている。

リデュースに着目している発言であり、そこを取り上げることでリサイクルよりリデュースの方が大切だということに気付くことができたかもしれない。

<世話人校長先生より>

・販売（扱いに注意する）の工夫になる。→コストダウン

トレイは5円かかる。

真空パックは、2・3日保存できる。

子どもたちの意識もいる。

・ごみ集積所→視覚化して流れをもたせる。

・単元をつくる 　　こどもがどうしたいか。

分別があたりまえ（自覚化）

・リデュースは価値がある。→4年生には難しい。

・4年生にはリユースまででいいのでは。しかし、教材研究次第。

・最終処分場で、ごみを出す人間として関わるためにどうしたらよいか。

・自分たちが協力できることをごみのゆくえを追っていくなかで考えてほしい。

文責 岡崎 巨樹 (山下小学校)